

## 江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

|     |   |
|-----|---|
| 会議名 | 平成24年度第2回 第4分科会（教育分野）   |
| 日時  | 平成24年10月26日（金） 午後6時～午後8時51分                                       |
| 場所  | 江南市役所 2階 大会議室（南）  |
| 出席者 | 市民委員<br>伊藤 鶴吉、川口 邦彦、柴田 熙、津田 喜代治、丸井 ささぐ、水野 勲<br>森崎 芳子、             |
|     | 市職員<br>武馬 健之、伊神 真一  |
| 議題  | 1. 江南市まちづくり会議（分野別会議）議事要旨について<br>2. 施策評価の結果について<br>3. 第3回の会議日程について |
| 資料  | 資料1 江南市まちづくり会議（分野別会議）議事要旨<br>資料2 平成23年度施策評価の結果                    |

### ◆ 会議結果 ◆

#### 1. 江南市まちづくり会議（分野別会議）議事要旨について

- ・江南市まちづくり会議（分野別会議）議事要旨について、事務局より説明がありました。
- ・補助教員は教員免許取得者を配置しているのか、また、支援職員はどのような資格を持った方を配置しているのかについて質問があり、補助教員については、授業を受け持つ必要があることから教員免許取得者を配置しているが、支援職員については、特別な支援が必要な児童・生徒の手助けをお願いしており、授業を受け持つことはないため、必ずしも教員免許の資格が必要ではないとの説明がありました。ただ、支援職員を募集した結果、教員免許資格が必須要件ではないにも関わらず、教員免許取得者が応募し、結果的に支援職員として配置する場合もあるとの説明がありました。
- ・支援職員の養護教諭資格の必要性について質問があり、必要ないとの説明がありました。
- ・ティームティーチングや少人数指導の運用上のきまりについて確認したところ、各学校の裁量に任せて実施しているとの報告がありました。
- ・補助教員の小学校での英語指導状況について質問があり、江南市では補助教員が英語指導することはないとの説明がありました。
- ・小学校における外国語活動の状況について質問があり、小学5年と6年の授業は、担任と英語指導助手(ALT)が受け持っている。英語指導助手との契約については、中学1年から3年までと小学1年2年5年6年を対象として、事業者と業務委託契約を締結し、小学3年4年を対象として、英語が堪能な方を直接雇用により配置しているとの説明がありました。
- ・業務委託契約による英語指導助手が受け持つ授業の時間数について質問があり、平成24年度は年間45週を上限とし、週30時間の条件の下、3名を配置しているとの説明がありました。
- ・英語指導助手が受け持つ授業での教材について、江南市独自の教材を使用しているのか全国共通の教材を使用しているのかについて質問があり、主に文部科学省の教材を使用しているが、委託業者が準備した教材を使用する場合もあるとの説明がありました。
- ・議事要旨については、文章の表現誤り及び誤字の箇所を修正することで、了承されました。

## 2. 施策評価の結果について

### 〔柱1〕地域に開かれた快適で安全な学校づくり

#### 〔施策②〕地域連携の推進

- ・「地域の人にあいさつする児童・生徒の割合」の実績値が 79.5%で非常に高い結果が出ているが、普段の生活において、児童・生徒が地域の人にあいさつをしている実感はあまりなく、また、どのように実績を把握しているのかについて質問があり、各学校の子どもたちに対して毎年アンケートを実施し、把握した結果を実績値としているとの説明がありました。
- ・スクールガードを通して子ども達の様子を毎日見ているが、ほとんどの子ども達があいさつをしてくれるが、声が小さいとの意見がありました。また、大人からあいさつをすれば、必ずあいさつが返ってくるとの意見がありました。
- ・PTAのあいさつ運動に参加したことがあるが、大人からあいさつをすれば、子ども達から必ずあいさつが返ってきたが、もし、大人からあいさつをしなかったら、子ども達からあいさつが返ってくるのか疑問に思うところがあるとの意見がありました。
- ・子ども達は、近所の知っている人には必ずあいさつをするが、「知らない人に声をかけられても、付いて行かないように」と学校や家庭で教えられていることを考慮すると、子ども達が積極的にあいさつをする状況にないように思えるが、毎日の生活の中で、大人からあいさつをしていけば、そのうち顔馴染みになり、子ども達からあいさつができるようになるとの意見がありました。
- ・子ども達に野球を教えているが、グラウンドの中では全ての子ども達があいさつをしてくれる。しかし、一歩グラウンドを出てしまうと、あいさつをしなくなってしまう両極端な状況がある。これが子ども達の現状ではないかとの意見がありました。
- ・あいさつは子どもの問題でもあるが、大人の問題であるとも思う。大人があいさつをしているかという、あまりしていないように思える。大人があいさつをしなければ、子どもがあいさつをしないことは当然のこととなる。大人がきちんとした手本を示さない中、子どもにあいさつをしなさいと指導するのは片手落ちである。大人も含め子ども達と地域が一体となって、あいさつができる環境づくりに努めることが大切であるとの意見がありました。また、学校や地域で実施されている、あいさつ運動を今後も継続していく必要があるとの意見がありました。
- ・子どものあいさつ、親のあいさつ、それぞれ問題があると思われるため、あいさつの重要性をPTAなどの教育講演会を通して啓発してみてはどうかとの意見がありました。
- ・「職場体験学習生徒受け入れ延べ事業所数」の達成状況について 109.7%と非常に良い結果が出ており、教育委員会の積極的な姿勢が評価できるとの意見がありました。
- ・幼稚園や保育園での就学前の子どもを通しての職場体験は、一人っ子の生徒にとって非常に貴重な体験ができる良い機会であり、また、就学前の子ども達にとっても職場体験の生徒と異年齢とのふれあい交流により貴重な体験ができるため、今後も継続していただきたいとの意見がありました。
- ・職場体験学習の平均体験時間数について質問があり、受け入れ事業所の理解と協力の下で、3日間の職場体験学習を実施しているとの説明がありました。
- ・「地域の行事に積極的に参加している児童・生徒の割合」という指標の、「地域の行事」には、どのような行事が含まれ、どのように把握しているのかについて質問があり、全小中学校の児童・生徒にアンケートを実施し把握しており、行事については、地域で開催されるお祭り、運動会、子ども会などの活動が対象になるとの説明がありました。
- ・「地域の行事」が「お祭りや子ども会」になると対象が小学生に限られ、中学生の選択肢の幅が狭くなってしまふ。国際交流フェスティバルや市民花火大会後の河川清掃活動などに多くの中学生が参加しているので、選択肢にボランティア活動を加えてみてはどうかとの意見がありました。

- ・中学校の部活動で教員が対応できない部活がある場合は、どのように対応しているかについて質問があり、各校4名で地域の中から運動系では剣道や野球、文科系では琴といった部活において講師をお願いしているとの説明がありました。

### **【施策③】 学校給食の提供**

- ・学校給食における地場産物の品目について質問があり、越津ねぎ、なばな等の地場産物を給食に使用しているとの説明がありました。
- ・地場産物を給食に使用する時は、産地が子ども達に分かるようになっていくかについて質問があり、給食の献立表に産地表示をしているとの説明がありました。

### **【施策④】 学校の管理、運営の充実**

- ・太陽光パネル設置事業の今後の方向性の「廃止・中止」の理由について質問があり、北部中学校と古知野中学校に導入した結果、現時点では休止の状況にあるため、「廃止・中止」としているが、今後、施設改築などの機会を捉えて検討していくことになるとの説明がありました。

## **【柱2】 将来にわたって活躍できる人づくり**

- ・資料2に基づき、委員（教育課長）より説明がありました。

### **【施策②】 子どもを育成する環境の充実**

- ・指標の表現で「感じる市民の割合」とあるが、どのような市民を対象にアンケートを実施したのかについて質問があり、平成22年度に実施した市民満足度調査では、市内在住の18歳以上の方を対象に無作為で1,800人を抽出したとの説明が事務局よりありました。また、来年度実施する市民満足度調査も前回同様の条件で実施することを予定しているとの説明が事務局よりありました。
- ・子どもの教育に関する指標については、教育を受けている児童・生徒がいる家庭を対象にアンケートをした方が、市民の割合としての実績値の正確性が確保されるので、アンケート対象の抽出方法を無作為から変更してはどうかとの意見があり、今後開催するまちづくり会議の全体会議で教育分野以外の委員の意見も伺いながら検討したいとの説明が事務局よりありました。
- ・不登校の児童・生徒の状況について質問があり、30日以上欠席している児童・生徒を基準にすると平成21年度は小学校が40人、中学校が106人、平成22年度は小学校が34人、中学校が111人、平成23年度は小学校が49人、中学校が121人になるとの説明がありました。
- ・不登校の主な理由について質問があり、平成23年度の実績では小学校は1番目に親子関係の問題、2番目に無気力、3番目に情緒的不安、また、中学校は1番目に無気力、2番目に遊び、非行、情緒的不安、3番目に学業不振であるとの説明がありました。
- ・小学6年生から中学1年生に上がる際の環境変化による不登校、いわゆる「中1ギャップ」ということが社会問題として取り上げられているが、江南市においてはどのような状況であるかについて、平成23年度の学年別の不登校の状況で説明していただきたいとの意見があり、小学6年生が19人、5年生が10人、4年生と1年生が6人ずつ、3年生が5人、2年生が3人であり、また、中学校については、1年生が27人、2年生が50人、3年生が44人であるとの説明がありました。
- ・文部科学省の過去のデータでは、不登校の状況について、小学6年生から中学1年生に上がると約3倍になるとの報告が発表されていたが、江南市については、そのような傾向が見受けられるのかについて質問があり、江南市として「中1ギャップ」を少しでも解消するために、小中連携で学校毎に努めているとの説明がありました。
- ・不登校の児童・生徒への対応について質問があり、担任が家庭訪問を行う中で保護者も含め、解決の糸口を導けるように努力しているとの説明がありました。また、担任だけで解決に至らない場合もあるため、教務主任、生活指導、教頭、校長までを含めた中で、学校全体として協議し対応しているとの説明がありました。

- ・不登校になる前の傾向として「保健室登校」があり、養護教諭が一人で相談対応するのは大変であるため、相談相手になれるボランティアの大人がいると良いとの意見があり、各小中学校に児童・生徒の悩みなどの相談を受ける「心の教室相談員」を配置しているとの説明がありました。
- ・適応指導教室「You・輝」の設置場所と受入状況について質問があり、市民体育会館に教室を設置し、7月末の状況では、小学5年生が1名、中学2年生が4名、中学3年生が5名の10名が在籍しているが、全員が毎日登校している訳ではないとの説明がありました。また、体験入室では、中学2年生と3年生が1名ずつ体験しているとの説明がありました。
- ・カタカナは小学校で習うことになっているが、幼稚園や保育園の年中や年長で既に身につけてから入学する児童がいることから、小学校でのカタカナの授業数が少なく、この段階で学習についていけない児童がいるため、この状況を学校だけで解決するのではなく、家庭での親との学習も含め取り組む必要があるのではないかととの意見がありました。
- ・小学校での学習のつまずきを解消するため、個別学習指導のシステムづくりとして、退職教員や優れた技能を持った地域の人材を活用し、学力不足の児童を支援することを検討しているとの説明がありました。
- ・いじめの件数について質問があり、平成21年度は小学校が8件、中学校が31件、平成22年度は小学校が4件、中学校が11件、平成23年度は小学校が7件、中学校が21件である。平成24年度については8月末現在で5件の報告を受けているが、早期発見により解決している。原因としては「ことばによるいじめ」が多い傾向にあるとの説明がありました。
- ・不登校で適応指導教室にさえ通えない児童・生徒に対する支援を、ボランティアなどを活用して対応する必要があるとの意見がありました。

### **〔柱3〕生涯を通して能力を伸ばし、活かせる機会づくり**

- ・資料2に基づき、委員（生涯学習課長）より説明がありました。

#### **〔施策①〕生涯学習活動の推進**

- ・生涯学習講師人材バンクの利用状況について質問があり、人材バンクの冊子を作成し、公民館、体育館等に配布しPRに努めているが、ほとんど利用されない状況であるとの説明がありました。
- ・公民館講座や公民館フェスタなどの公民館活動の状況を施策評価の指標として設定がされていないが、公民館での活動は生涯学習活動の大きな役割の一部を担っているため、成果指標として把握したほうが良いとの意見がありました。
- ・公民館でのサークル活動が活発にできるよう、地域の公会堂などを活用できないかとの意見があり、公民館以外のサークルの活動の場としては、無料の施設としては学習等供用施設、老人福祉センターの会議室、有料の施設としては、市民体育会館や市民文化会館の会議室などがあるため、これらの施設を利用していきたいとの説明がありました。
- ・公民館を今後増やしていくことについて質問があり、中学校区ごとに公民館があるのが望ましいが、地域の学習等供用施設が公民館代わりになっているのが現状であり、施設を整備していくことは非常に難しいとの説明がありました。
- ・愛知江南短期大学と連携した講座の受講者数が減少傾向にあるが、その理由について質問があり、平成21年度の開講科目が126科目、22年度が108科目、23年度が102科目と年々公開講座の科目数が減少したことが受講者の減少につながっているのではないかととの説明がありました。
- ・図書館の施設拡充について質問があり、新図書館建設のための基金を現在7億3千万円積立しているが、基金の使途としては新図書館の建設にしか認められていないため、現行の図書館の施設拡充には基金の活用ができないことや、新図書館建設と新体育館建設を同時に進めていくことは財政的に非常に厳しい状況にあるとの説明がありました。また、現在の図書館は、指定管理者による運営で、現有施設を有効に活用し、指定管理者の創意工夫により、市民の要望に応えながら、図書館サービスの充実に努めているとの説

明がありました。

## **【施策②】スポーツレクリエーションの充実**

- ・屋外スポーツ施設の稼働率とあるが、プールは施設対象に入っているのかについて質問があり、プールについては、7月と8月の2ヶ月間に限定され、この間毎日稼働しているため、稼働率は100%になることから、屋外スポーツ施設の稼働率の対象には入れていないとの説明がありました。
- ・各指標の達成状況は目標を達成している状況にはあるが、スポーツに携わる人が減ってきているという問題があり、スポーツ人口の底辺を支える子ども達にどのように推進していくのかについて質問があり、スポーツ少年団などで活動している団体スポーツ競技を通して推進していきたいとの説明がありました。また、学校においては、クラブ活動をする児童・生徒や指導をする人も減ってきており、活動の場がなくなりつつあるとの説明がありました。
- ・地域におけるスポーツの活動の場の減少に歯止めをかけるため、地域において開催されているコミュニティスポーツ祭の場で、スポーツ推進員や校区スポーツ委員の方々の力をお借りして、地域の方々が親子のふれあいを通してスポーツの楽しさを体験していただくことに努めなければならないとの説明がありました。
- ・四市交流事業のスポーツ大会について陸上競技に参加できる選手がいないため、大会の開催ができない状況にある。スポーツ施設充実といった課題もあるが、今後も競技種目の減少が危惧されるとの意見があり、小牧市、犬山市、岩倉市、江南市の四市の市民による57年という伝統と歴史のあるスポーツ交流大会に参加しているが、人口規模、事業所数、スポーツ施設数、スポーツ人口の差などにより、各市大会の開催や参加について温度差があり大会自体が縮小傾向にある。また、市としてもスポーツ施設の充実を図るため、新体育館建設検討委員会を立ち上げ、施設の建設場所や規模について現在検討をし始めたところであるが、今後は市民委員を公募で募り、意見をいただきながら魅力ある体育館づくりを考えていきたいとの説明がありました。
- ・小牧市に公園とスポーツ施設が一体となった国際大会が開催できるパークアリーナといった施設があるが、そういった施設はできないのかとの質問があり、市の財政規模の問題もあるが、国などの補助制度を活用した公園整備と一体となった体育施設を整備するのに適した用地が無いため困難であるが、近隣の一宮市、犬山市もスポーツ施設の更新を図っている中、江南市もスポーツ施設の充実を図りたいとの説明がありました。
- ・施設といったハード面の充実を図る前に、スポーツ人口を増やすため、ソフト面でのサポートが重要ではないかとの意見があり、近年注目を浴びているフットサルが盛んにスポーツとして楽しまれている中、従来のバレーボールやバスケットボールなどの競技人口の状況を踏まえつつ、市としてどういったスポーツを推進し、施設を整備していくかについても検討していきたいとの説明がありました。
- ・愛知国体でソフトボールを江南市で開催したが、その後どのような利用状況なのかについて質問あり、愛知県大学ソフトボール大会や中小体連のソフトボール大会を招致しており、ソフトボールのグラウンドとしては蘇南公園のグラウンドは有効に活用されているとの説明がありました。

## **3. 第3回の会議日程について**

- ・第3回の会議日程について、次のとおり決定しました。

<第3回> 11月 5日(月) 午後6時00分～